

回卒業生の声!

この四年間を振り返ってみると、自分自身「随分変わった」と感じます。あつという間の四年という月日、しかし私は実に多くの事を成し遂げたし、同時にそれは多くの先生や友人、そして両親の協力があってこそなので、満足感と感謝の気持ちでいっぱいです。

米国留学で学んだもの



外国語学部
第一回卒業生
米語学科
英米語学
部卒業生
丹羽裕智

す。四年もかけて、その成果がこれではやや情けなしかもしれませんが、人生の基礎を固めたいという思いで、とりあえず一つの結果を出したといえ、まだまだのたりませぬ。四月から社会人となりますが、同時に今ようやく見つけた目標に向かって、勉強・研究を続けたいと思っています。大学が私の本来の人生の第一歩だったと言えるように今後もより一層頑張りたいと思っています。

「英語」に対して自分はどういうアプローチをしていくのか、初めの頃はどうにも見当もつかず、いわば高校の延長のようにただ教えられていた。初めて見近に外国人の先生を見た。「英語」が見、

「大事件」でした。アメリカの大地の広さ。やさしく時に厳しいアメリカでの先生たち。どうして毎晩そんな馬鹿騒ぎするのか不思議な寮の中の学生達。その中に加わって一緒にしゃべれば、人種の違いなど感じることもなく、まるで自分が十年も前からアメリカに居るようにさえ感じました。アメリカ的「自由」と「社会奉仕の意識」を体験したことは、その後私の考え方に非常に大きな影響を与えています。今後とも長期留学プログラムで毎年多勢の学生が海外へ出ていくことで、それぞれが今までの自分達にない「何か」をつかんできてほしいと願っています。

今年、私は名古屋学院大学を卒業しました。しかし、決して何か「終わった」という感じがしません。むしろ、これから何かが始まるという期待感で胸がいっぱいです。最近ようやく、自分は何に向いているのか、何が本当にやりたいのかわかったような気がしています。四年もかけて、その成果がこれではやや情けなしかもしれませんが、人生の基礎を固めたいという思いで、とりあえず一つの結果を出したといえ、まだまだのたりませぬ。四月から社会人となりますが、同時に今ようやく見つけた目標に向かって、勉強・研究を続けたいと思っています。大学が私の本来の人生の第一歩だったと言えるように今後もより一層頑張りたいと思っています。

☆丹羽さんは、現在、愛知県職員として活躍中です。

新しい仲間の誕生を祝う

同窓会会長 加藤末男



会としての活動がようやく軌道にのりつつあります。

大学も一九八九年に外国語学部及び留学生別科を設置、それにもない研究棟・本部棟が新しく建ち、その後学生サービス向上の為、第二学生食堂も建設されました。一九九二年には経済学部商学科を商学部商学科に改組、三学部四学科一留学生別科となり、女子学生も七百余名、世界各国からの留学生も四十数名常時在学しており国際的雰囲気を感じており母校の発展の様子が感じられます。

大学においては三〇周年を機会に国際交流のより一層の推進と教育・研究の振興のための募金活動を行なうことになっております。母校発展の為募金要項が到着した際には皆様方におかれましては格別なるご協力をお願い致します。

同窓会におきましても同窓生諸兄の期待に応えられるよう、また母校発展に寄与出来るよう積極的に活動を行なっていきたいと存じます。皆様方のご健勝とご活躍を祈念すると共に皆様方の絶大なご支援をお願い致します。

学を取り巻く環境は一八才人口の減少、バブルの崩壊等の影響など極めて厳しくなっております。さて、同窓会活動は開学当初より中学・高校中心の敬愛同窓会に包含され、大学が名古屋学院より分離独立した後も、敬愛同窓会の大学部会として細々と活動しておりました。こうした中、大学卒業生として独自の活動をすべきであるとの強い卒業生からの要請もあり、敬愛同窓会とは提携しお互いに尊重しながら大学同窓会は独自の道を歩むことになり、大学同窓

